



日本中医学会 第 12 回学術総会

シンポジウム 3

「漢方薬局における体質改善と中医学の応用」



<テーマ>

『中医学で考える不妊症の体質と対策と症例』

<講演者>

桐 正和

<緒言>

採卵5回するも胚盤胞取得0だった方が、体質改善希望にて漢方服用、生活習慣見直し後の採卵で、4つ胚盤胞取得でき、その後、妊娠、出産に至った症例を報告。

<症例>

漢方薬で 33 歳女性 2019 年 10/27 初診

AMH1.4、他問題所見なしで、タイミング 3 回、AIH 3 回、採卵 5 回（胚盤胞取得できず）と、経過が思わしくない為、体質から見直して、妊娠できればと漢方薬を求めて来局。

症状・所見) 27-30 日周期 6 日間、立ち眩み、生理前の肌荒れ、むくみ、便秘、末端冷え、肩こり、イライラしやすい、口渇、排卵時期おりもの不明瞭、苔白膩、舌暗紅

弁証) 肝脾不和 痰湿 血虚血瘀 腎精不足

処方) 加味逍遥散加川芎地黄、紫河車（プラセンタ）製剤

養生面) 食事、睡眠、運動習慣の指導

<結果>

2019 年 10/27 当店初診にて漢方服用、生活習慣の見直し開始

2020 年 5 月 採卵 12 個採卵後、胚盤胞 4 個凍結

2020 年 6 月 移植 判定陰性

2020 年 10 月 移植 判定陽性

2021 年 6 月 出産

<考察>

弁証論治に基いて、漢方薬、養生にて体質を改善する事で、採卵結果が改善し、妊娠に至った。

不妊治療において、漢方服用、生活習慣の見直しにより、体質改善をしていくことは、成功率を上げていくことに有効と考えられる。

<テーマ>

産後ケアと中医学

～中医学で産後の女性の体質を回復する～

<講演者>

鄭 冬梅



<緒言>

お産は、女性にとって、人生の中で重要なことのひとつである。産褥期は、産後女性の心身の回復、子育ての不安及び社会復帰として大変重要な時期となる。産後のケアが不十分の場合、将来、体の不調が残り、体と精神共に崩れやすくなる。

この時期のケアを中国では「坐月子（ズオユエズ）」と呼び、古代から出産後1か月間に必ず行うとされる独特な風習がある。出産時の体力の消耗、産後ホルモンの劇的な低下による疲れと精神不安、子宮復古などを妊娠前の状態に戻すためには68週間の産褥期の安静休養が必要とされている。中国では、「坐月子」の期間、家族全員から支えられ、産婦は家事をせず、寝て・食べて・赤ちゃんと触れ合うことしかしないことで、心身の回復はより早くできる。一方、日本では退院後、身体を回復しないまま、すぐに育児しながら家事をする産婦が多く見られ、産後のケアが課題となっている。日本においても産後ケアの重要性を普及し、中医学に基づく産後ケアが有意義であることを紹介したい。

女性は産後に出産による消耗で体質が変わり、気虚、血虚、陰虚の「三虚」となり、悪露の排泄、母乳トラブル、関節痛、産後うつといった不調が見られる。妊娠中や産後早期から弁証論治に基づく中医学の産後ケアを行う。

これまでに妊活中の女性に中医学のサポートを行い、年間約400名の方が妊娠され、妊娠中も中医学サポートを継続することで、産後の不調を予防し、母子共に健康である方が多い。産後も早期より中医学サポートを行うことで、産後不調の早期解消、将来の母子の健康に貢献できると考える。